

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費 免疫・アレルギー疾患政策研究事業
「免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤及び評価基盤の構築」

(主任研究者：森田英明)

第1回班会議

日時：2021年10月15日（金曜日）18:30～20:00

場所：ZoomによるWeb会議

<https://us02web.zoom.us/j/88276372434?pwd=S0h3NkRBVm9ZbE9OTVFXMkRGUzdVUT09>

ミーティングID: 882 7637 2434

パスコード: 692425

議事次第

1. ご挨拶

桑原 優 厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 課長補佐
富田 康裕 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課

2. 自己紹介

3. 本研究班で取り組む3つの柱について（森田英明） [参考資料1]

4. 異分野連携、産官学民連携及び国際的な研究開発を進められる仕組み作り
（足立剛也、赤崎安序） [参考資料2, 3]

5. 医療の現状及び経年的変化を把握するための研究基盤の構築

研究の overview（貝沼圭吾） [参考資料4]

エピペン処方数に関する研究（佐藤さくら） [参考資料5]

気管支喘息に対する生物学的製剤処方数に関する研究（神尾敬子） [参考資料6]

アレルギー性鼻炎/結膜炎に対する外科的治療に関する研究（赤崎安序） [参考資料7]

アレルギー性鼻炎に関する免疫療法の医療実態把握（坂下雅文） [参考資料8]

アトピー性皮膚炎に関する研究（宮川明大） [参考資料9]

6. 総合討論

資料：

議事次第

研究班名簿

参考資料 1 本研究班で取り組む 3 つの柱について

参考資料 2 国際協働・異分野融合・産官学民連携

参考資料 3 患者・市民参画によるスマートフォンアプリを用いた花粉症研究

参考資料 4 NDB データを用いたアレルギー疾患の医療実態把握

参考資料 5 NDB データを用いたエピペン処方に関する解析

参考資料 6 NDB を用いた喘息に対する生物学的製剤使用状況調査

参考資料 7 NDB を用いたアレルギー疾患の医療実態把握（花粉症）

参考資料 8 NDB を用いたアレルギー性鼻炎に関する免疫療法の医療実態把握

握

参考資料 9 NDB を用いたアレルギー疾患の医療実態把握（アトピー性皮膚炎）

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費 免疫・アレルギー疾患政策研究事業
「免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤及び評価基盤の構築」研究班名簿

研究代表者

森田 英明 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
免疫アレルギー・感染研究部 室長

研究分担者

玉利 真由美 東京慈恵会医科大学 分子遺伝学研究部 教授

天谷 雅行 慶應義塾大学医学部 皮膚科学教室 教授

海老澤 元宏 国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター
副臨床研究センター長

藤枝 重治 国立大学法人 福井大学
医学部感覚運動医学講座・耳鼻咽喉科頭頸部外科 教授

松本 健治 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
免疫アレルギー・感染研究部 部長

中山 俊憲 国立大学法人 千葉大学 学長

足立 剛也 京都府立医科大学
医療レギュラトリーサイエンス学教室 特任講師

野田 龍也 公立大学法人 奈良県立医科大学
公衆衛生学講座 准教授

貝沼 圭吾 国立病院機構 三重病院 臨床研究部 研究員

中島 沙恵子 国立大学法人 京都大学大学院医学研究科
皮膚科学 講師

神尾 敬子 九州大学病院 光学医療診療部 医員

佐藤 さくら 国立病院機構 相模原病院
臨床研究センター 病因・病態研究室 室長

倉島 洋介 国立大学法人 千葉大学大学院医学研究科
イノベーション医学 准教授

二村 昌樹 国立病院機構 名古屋医療センター 小児科 医長

猪俣 武範 順天堂大学医学部 眼科学講座 准教授

坂下 雅文 国立大学法人 福井大学医学部附属病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科/医学研究支援センター 講師

福田 憲 高知大学医学部 眼科学講座 准教授

正木 克宜 慶應義塾大学医学部 内科学 助教

研究協力者

小川 靖

国立大学法人 名古屋大学医学部附属病院
先端医療開発部 講師

伊藤 靖典

地方独立行政法人 長野県立病院機構
長野県立こども病院 小児アレルギーセンター長

赤崎 安序

順天堂大学医学部 眼科学教室

宮川 明大

川崎市立川崎病院 皮膚科

緒方 大聡

国立病院機構 福岡病院 呼吸器内科

参考資料 1 本研究班で取り組む3つの柱

Pillar 1: 評価 免疫アレルギー研究分野の進捗評価に資する調査研究

研究助成金や研究開発戦略目標などのインプット、論文成果の量、質、長期的投資（厚み）、特許、社会/広報活動などのアウトプットに関する情報等を、研究戦略に関連した自然言語・キーワード解析の手法を用いて、免疫アレルギー研究分野の強み・弱み・可能性を明確にすることを旨とする。その上で、各戦略における効率的な支援のあり方や、研究推進するために必要な体制や仕組みに関する検討を重ね、10か年戦略の中間評価に向けた取り組みを行う。

Pillar 2: 把握 医療の現状及び経年的変化を把握するための研究基盤の構築

アレルギー疾患対策基本法で定められた6疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、食物アレルギー）を対象として、レセプト情報・特定検診等情報データベース（NDB）を活用し、罹患者数、診療状況、経年的変化を把握し、研究戦略および政策研究の方針を策定に資するデータの取得を目指す。

Pillar 3: 連携 異分野連携、産官学民連携及び国際的な研究開発を進める仕組み作り

バーチャル・リアリティ（VR）を用いたプラットフォームの活用を推進し、イベント等を通して、積極的に産官学民の人的交流、知的交流を推進し、連携強化を行う。また継続的な次世代の人材育成と、国際的な人材育成を目的として海外研究留学の推進、及び海外で活躍する日本人研究者成果の収集を行っている。さらに、次世代への研究基盤の橋渡しのために、拠点病院を中心としたサンプル及び臨床情報の収集、データシェアリング等の検討を進める。

